

令和7年度 鹿児島学力・学習状況調査に係る本市の結果公表

令和8年4月

1 調査の概要について

(1) 調査のねらい

学習指導要領において身に付けることが求められている知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識などの学習状況、学校の取組状況を把握するものです。

また、C B Tで実施することにより、一人一人の児童生徒が自らの学力や学習の状況を振り返ることで、自らの学びに生かし、児童生徒の情報活用能力の育成につなげるとともに、各学校においては詳細な分析を個別最適な学びに活用するなど、指導法改善を図り、児童生徒の確かな学力の定着や向上を推進することを目指します。

(2) 調査対象（参加者数）

ア 小学校第5学年（739人）

イ 中学校第1学年（727人）

ウ 中学校第2学年（650人）

※ 参加者数は、国語科の調査に関する参加者数です。

(3) 調査内容

○ 小学校第5学年：国語、社会、算数、理科及び学習状況調査（児童版）

○ 中学校第1・2学年：国語、社会、数学、理科、英語及び学習状況調査（生徒版）

○ 各小・中学校：学習状況調査（学校版、学校長の責任において回答）

※ いずれも全面C B T方式での実施

(4) 実施日

ア 学力調査

校種	学年	第1日目	第2日目
小学校	第5学年	令和8年1月13日（火） 国語、理科	令和8年1月14日（水） 社会、算数
中学校	第1学年	令和8年1月15日（木） 国語、理科	令和8年1月16日（金） 英語、数学、社会
	第2学年	令和8年1月20日（火） 理科、国語	令和8年1月21日（水） 社会、英語、数学

イ 学習状況調査（プレ調査含む）

令和7年11月4日（月）～11月28日（金）

令和7年1月14日（火）から1月28日（火）の期間のうち、連続する2日間を各学校が選択して実施

2 結果の概況について

(1) 学力の状況について

ア 小学校第5学年（数値は平均正答率）

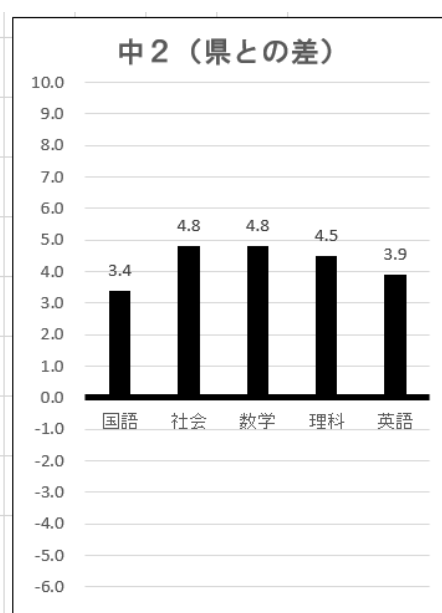
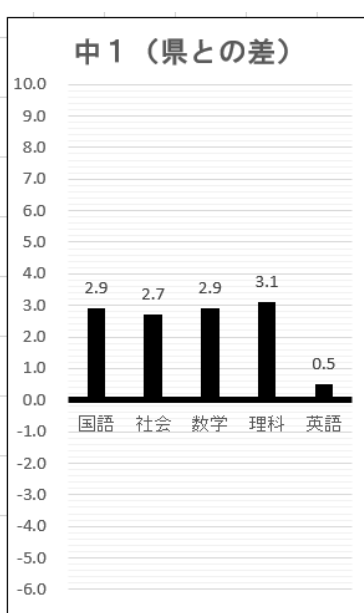
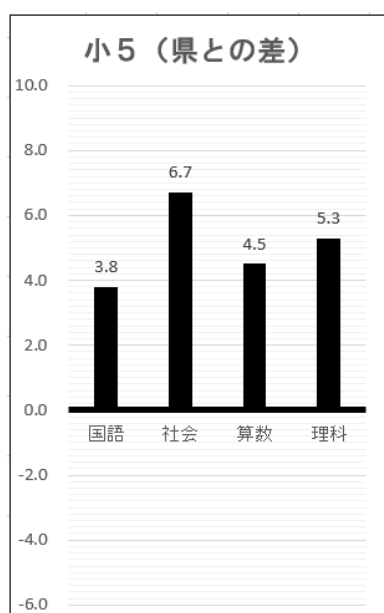
	国 語			社 会			算 数			理 科		
	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現
市平均	55.5	75.9	44.3	62.1	61.5	62.6	47.5	47.2	47.8	64.0	63.2	65.0
県平均	51.7	71.4	40.6	55.4	54.3	56.3	43	42.8	43.2	58.7	57	60.4

イ 中学校第1学年（数値は平均正答率）

	国 語			社 会			数 学			理 科			英 語		
	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現
市平均	62.3	68.7	58.9	52.4	53.2	51.5	50.4	63.0	37.7	53.2	54.6	48.8	61.0	59.8	62.4
県平均	59.4	65.7	56.0	49.7	50.2	49	47.5	60.6	34.4	50.1	51.7	45.4	60.5	58.9	62.4

ウ 中学校第2学年（数値は平均正答率）

	国 語			社 会			数 学			理 科			英 語		
	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現	全体	知識 技能	思考 表現
市平均	55.4	57.6	54.1	60.1	57.5	63.7	41.7	52.7	30.6	52.7	51.0	56.8	48.7	43.9	53.6
県平均	52.0	55.9	49.6	55.3	52.6	59.1	36.9	48.0	25.8	48.2	46.3	53.0	44.8	39.6	50.1



エ 各学年調査結果を踏まえた分析

- 昨年度に引き続き、全ての学年において、調査対象となった全教科の平均正答率が県平均を上回っており、学習内容に対する理解が図られています。
- 正答率のばらつきは全体平均と概ね同程度ですが、一部の教科では全体よりもばらつきが小さく、層の厚い学力が形成されているといえます。その一方で、個人差も見られます。
- 選択式の問題に比べて「短答式」、「記述式」問題の正答率が低い傾向にあります。思考したことを言葉や式で表現したり、論理的に説明したりする力については今後、授業改善を通して高めていく必要があります。

(2) 学習の状況について

- 「自分には、よいところがあると思いますか。」という自己肯定感に関する数値がどの学年も県平均よりも高い結果でした。
- 中学校2年生については、多くの項目で県平均よりも数値が高い結果でした。特に、社会、数学、理科、英語の「教科の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が高かったです。
- 全ての学年において「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか」「友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の数値が県平均より低い結果でした。
児童生徒が、自分で学ぶことや学び方を決めて、試行錯誤してやり遂げたり、他者と協働しながら解決したりする学びの体験ができるようにすることが課題と言えます。

(3) 今後の取組

本市は、「学力向上アクションプラン推進事業」を中心に、各中学校ブロックを単位とした共通実践、研究授業を通じた研修会の実施など、学校・家庭・地域が一体となった学力向上の取組を推進しています。事業の趣旨や重点を踏まえ、各校では、自校の成果と課題を明確にし、実態に応じて重点取組内容を具体化して、学力向上の取組について引き続き取り組んでまいります。

3 家庭・地域へのお願い

始良市では、教育の目標を「自立」と定めています。子供たち一人一人が自立した学び手となっていくために、学校での学びと、家庭での学びを一体的に「学習者主体」の学びとしていくことが必要です。

このような考え方のもと、家庭学習の更なる充実を目指すために、年度初めに各学校から「始良市家庭学習の手引き」を各家庭へ配布しました。保護者のかかわりの在り方についてまとめておりますのでご活用ください。

子どもたちが将来の夢や希望に向かって努力できるよう、引き続き、学校・家庭・地域が協働した支援や働きかけをよろしくお願いします。